

人権について考えてみましょ

平成16年度人権週間重点目標

育てよう 一人一人の人権意識
身近なことから人権を考えてみませんか

強調事項

- 女性の地位を高めよう
- 子どもの人権を守ろう
- 高齢者を大切に育てよう
- 障害のある人の完全参加と平等を実現しよう
- 部落差別をなくそう
- アイヌの人々に対する理解を深めよう
- 外国人の人権を尊重しよう
- HIV感染者やハンセン病患者などに対する偏見をなくそう
- 刑を終えて出所した人に対する偏見をなくそう
- 犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう
- インターネットを悪用した人権侵害はやめよう
- 性的指向を理由とする差別をなくそう
- ホームレスに対する偏見をなくそう
- 性同一性障害を理由とする差別をなくそう

人権週間 12月3日～10日
障害者週間 12月3日～9日

人権という言葉に、あなたはどういうイメージを持っていますか？「かたい」「むずかしい」「ふれたくない」など人によってさまざまです。昨年1年間の自殺者数が、全国で3万4、000人と報告されました。その中で、小・中学生の自殺者は、前年の2倍近くになっています。いつの間にか、こんな社会になってしまったのでしょうか。

長崎県でインターネットのやりとりにかかわって少女が同級生を殺害する事件が起こりました。津山の少女が殺害された事件でも、インターネットに誹謗・中傷する書き込みが相次ぎました。情報社会の到来とともに、新たな人権侵害が大きな社会問題となっています。また、ハンセン病患者への偏見から宿泊拒否の問題が起き、岡山県下でも障害者団体への宿泊拒

否がありました。人権問題は他人ごとではなく、身近なところで数多く起こっています。意識しないしていると、気づかないうちに他人の権利を侵害していたり、自分の権利も侵されていたりする場合もあります。人権週間を契機に、人権について考えてみましょう。

問い合わせ先 市人権啓
発課 32 2048 へ

東京通信 41 便

津山市東京事務所 03 3592 7955
ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/tokyo/>

津山藩主の駕籠(かご)

今年には津山城築城400年の記念すべき年。津山郷土博物館には津山藩ゆかりの品々が展示されていますが、じつは東京にも津山藩主が使っていたものがあるのです。「江戸東京博物館」には松平越後守が参勤交代時に使った駕籠が展示してあります。当然複製で、本物は津山郷土博物館に展示されています。

漆が施された駕籠は、軽量化のため網代(薄く削った竹や木を縦横に編んだもの)で作られているとはいえず、長い行程を担ぐのも乗っているのもたいへんだったろうと想像されます。津山藩主が道中で用いた駕籠は「洪色網代黒塗長棒」と呼ばれるもので、これは諸大名にはなく、御三家など特別の大名のみに許されていたといえます。

江戸東京博物館の駕籠は実際に乗ることができ、しばしの殿様気分を味わうことができます。駕籠に乗った子どもたちは「これって昔のタクシー？」「結構狭い」などとうれしそうにはしゃいでいました。

津山藩主の駕籠はいつも人だかりが絶えないほど人気で、この日も子どもたちであふれていました。

